

元気のひきだし

子どもに多い!!おなかの風邪で知られている『ウイルス性胃腸炎』って?

感染性胃腸炎の中に、大きく分けてウイルス性胃腸炎と細菌性胃腸炎の2種類があります。ロタウイルスやノロウイルス、アデノウイルスなどのウイルスによるものをウイルス性胃腸炎といいます。ウイルス性胃腸炎は冬に、細菌性胃腸炎は夏に流行しやすいという特徴があります。

今回は、ウイルス性胃腸炎についてご紹介します。

感染経路

●嘔吐物・便から

感染者の嘔吐物・便を触った手や、その手で触れた物を介して口から感染します。また、嘔吐物が乾燥し、そこからウイルスが飛散しそのウイルスを吸い込み感染する場合があります。



●食品から

汚染された水や食品(特に二枚貝)を口にすることによって感染します。



症状

嘔吐から始まり、次第に下痢が見られ、発熱することもあります。酸っぱい臭いがする米のとぎ汁のような白っぽい水様便が、1日に何回も出るのが特徴です。嘔吐と下痢のため、体の水分が失われやすく、悪化するとぐったりして水分を受けつけなくなったり、尿の出が悪くなります。



対処法

治療の中心は、脱水を防ぐための水分補給(経口補水液、乳児用イオン水等)、安静、整腸剤内服などの対症療法です。ロタウイルスのみ定期予防接種があります。

嘔吐をした直後は飲んだり食べたりせずに胃腸を休ませる。



吐き気がおさまれば、スプーン1杯程度の水分を10~15分に1回与え、吐かないようであれば、量を少しずつ増やしていく。



水分をとっても吐かなければ、消化吸収がよく、水分補給も同時にできるおかゆやうどんから開始。



※ぐったりして水分を受けつけないときは、すぐに小児科を受診しましょう。

症状がなくなっても感染後2週間程度は便にウイルスが排出されているので、症状が落ち着いてからも、手洗いをしっかり行いましょう。手洗い後のタオルは共用しないことも大切です。



お問い合わせ:健康保険課 健康づくり係 ☎966-1217